



大分市立  
鴛野小学校  
学校だより

# 鴛野小通信

令和3年  
3月26日(金)  
NO. 43(最終号)  
発行者：板井勝博



## 素晴らしい卒業式でした

一昨日の朝、交通指導でいつもの交差点に立っていました。ほとんどの子どもは手ぶら。一枚のピンクの紙（体温記録表）を持っているだけでした。そんな中、時折、いつもと違うきらびやかな服を着ている集団が通ります。卒業生です。

「おはよう！卒業おめでとう！」

と声をかけると

「ありがとうございます」

と気持ちのよい返事が返ってきました。

春らしい暖かな、そして、少しキリッと引き締まった卒業式の朝はこうやって始まりました。

10時、卒業式が始まりました。新型コロナウイルス感染症のため、呼びかけと歌はあらかじめ録画したものをスクリーンに映すということが今年の大きな変更点でした。本来であれば子どもたちの生（なま）の呼びかけや歌声を聞きたいものです。しかし、今回の録画方式は、よく聞こえる、子どもの表情がよく見えるといった意外なメリットがあることもわかりました。

証書の授与ではマスクを外させました。（校長はマスクをつけています。）

「卒業証書授与では校長先生としっかりと目を合わせてください。皆さんの真剣な表情を校長先生は目に焼き付けたいと思います。」

と、練習のときに卒業生には伝えていました。子どもたちはその約束を忠実に守り、しっかりと目と目を見合わせて証書の授与をすることができました。

卒業式終了後は教室で担任との最後のお別れ、体育館で記念写真の撮影、昇降口からの見送りと続きました。終始、春の日差しが暖かく、修学旅行の雨を帳消しにしてくれているようでした。

素晴らしい卒業式でした。



\*校庭の桜です。五分咲きといったところでしょうか。

\*裏面に卒業式の式辞を載せています。ご覧ください。

## 要注意！いろいろな花があります

前号でホトケノザの花の蜜が子どもたちは大好き。けれど、ムラサキケマンのようなよく似た有毒な花もあるので気をつけなければいけないと書きました。

すると早速、地域の方がよく似ているとされる三つの花を持ってきてくれました。

一番上はホトケノザです。うまくいけば甘い蜜を吸えます。葉の形が仏様の台座に見えるところから、この名前が付けました。

真ん中の花がムラサキケマン。根、茎、葉、花などすべてが有毒です。この花の蜜を吸ってははいけません。

一番下の花はオドリコソウ。花の形が笠をかぶって踊る踊り子に似ているのでこの名がついたそうです。随分とロマンチックな命名ですね。オドリコソウは無毒のようです。

似た花だからと見境なく花を採って蜜を吸っていいわけではないのですね。気をつける必要があります。幸い鴛野小の敷地内にはホトケノザしかないようですが校外にはムラサキケマンがたくさん自生しているようですから注意してくださいね。

\* 3枚の写真は実際に持ってきてくれた花の写真ではありません。資料用の写真です。



ホトケノザ



ムラサキケマン



オドリコソウ

\* 本号が令和2年度(2020年度)「鴛野小通信」の最終号です。随分と個人的趣味の学校通信だったと思います。申し訳ありません。ご愛読ありがとうございました。(板井勝博)



## 式 辞

暖かな春の日差しが全ての動植物に満遍なく降り注ぎ生命の息吹を感じる今日このごろ、冬の寒さに耐えた校庭の桜の蕾も膨らみ始め、今か今かと開花の時を待っています。

本日は、保護者の皆様にご列席いただき鴛野小学校第42回卒業証書授与式を挙行できますことを、心よりお礼申し上げます。

今年度も新型コロナウイルス感染症のため通常の形式での卒業式を行うことができず、保護者の皆様にはご迷惑をかけております。大変申し訳ありません。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。先ほど、皆さん一人一人に卒業証書を授与いたしました。今、皆さんが手にした卒業証書は皆さんの成長の証です。この六年間、皆さんを励まし育ててくださったご家族の深い愛情と、関係する多くの方々の教えや支えの結晶であるということを深く心に刻み、感謝の気持ちを忘れないでもらいたいと思います。

さて、皆さんの小学校生活最後の1年間は新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年間でした。学校行事の多くが変更や中止になりました。授業などの学校生活も制約の多いものとなりました。特に運動会は午前中開催に、修学旅行は1泊2日の県外旅行が県内日帰りになってしまいましたね。

そんな、例年とは違う1年間でしたが、皆さんは極めて落ち着いて学校生活を送り、鴛野小学校のリーダーとして5年生以下のお手本となってくれたと思います。私にとって皆さんは自慢の6年生です。

先日のことですが卒業生の皆さんに卒業授業を行いました。最初に紹介したのは宮本延春(みやもとまさはる)さんの話です。いじめと家庭的な事情が原因で不登校になった宮本さん。中学3年間の通知表は、ほぼ1でした。高校で良き教師、友人に恵まれ猛勉強を開始。その後、大学、大学院に進学。卒業後は高校の教師となったのです。宮本さんは「人間の可能性は無限である」ということを身をもって示してくれました。

卒業授業で取り上げたもう一つの話は「1万時間の法則」です。「1万時間の法則」とは「世界レベルの技術に達するにはどんな分野でも1万時間の練習が必要」ということです。逆に言えば、1万時間、必死に練習すれば世界レベルに達することができるということです。この主張には批判も多いのですが、私たちに夢と希望を与えてくれます。授業では実際に「1万時間の法則」に挑戦している人を紹介しました。その人は矢部光太郎(やべこうたろう)といいます。矢部さんは中学校・高校・大学とサッカー部に所属。しかし、一度もレギュラーにはなれませんでした。自分のサッカー人生、このままでいいのかと一念発起した矢部さんは「1万時間の法則」を参考に100万回のシュート練習を自分に課しました。シュート練習の回数を記録し、現在6万回以上のシュート練習を達成。その様子をユーチューブにアップしています。そして、夢をかなえオーストラリアのプロサッカーチームに入ることができたのです。矢部さんは今この瞬間も100万回のシュート練習に向けて挑戦中です。「人間の可能性は無限である」ということを証明し、なおも高みに向かって挑戦をしているのです。

卒業生の皆さん、「自分なんてこんなものだ」「挑戦しても無理」「今からじゃ遅すぎる」「自分は才能がない」という気持ちがふと胸をよぎるかもしれませんが、そんなときは宮本延春さんや矢部光太郎さんを思い出してください。皆さんにはまだたっぷり時間があります。人間の可能性に挑戦してほしいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。立派に成長されたお子様の晴れ姿に感激もひとしおのものがあると存じます。教職員一同、心からお喜び申し上げます。また、皆様方には、これまで本校に温かいご理解とご支援、ご協力をいただいたことにつきまして、深く感謝申し上げます。

卒業生、保護者の方々の今後の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、式辞といたします。

令和3年3月24日

大分市立鴛野小学校 校長 板井勝博